

20 私立日本医学校設立者・山根正次の 医学教育の失敗

殿崎正明・唐沢信安・岩崎一

日本医科大学

一、はじめに

山根正次は、政治家、医学校長、朝鮮総督府の衛生顧問として多くの役割を果そうとしたために日本医学校校長から日本医学専門学校校長時代に学校経営が疎かになり、その結果後年校史から消された形になっている。何故そのようになったかその経緯についての理由と山根正次の全体像について調査した結果をその略歴、私立日本医学校設立前後、朝鮮総督府衛生顧問時代、財団法人私立日本医学専門学校設立、瀧澤竹太郎事件、学校騒動、晩年の山根正次等に分けて報告する。

二、山根正次の略歴

山根正次は、安政四年（一八五七年）十二月二十三日、山口県萩、香川津に生れる。長崎医学校から東京

大学医学部に進み、明治十五年に卒業（森鷗外より一学年下）し、長崎医学校の教授となる。その後明治二十年独逸に留学して法医学衛生学を研究し、四年後に帰国と同時に警察医長、明治二十九年警察庁第三部長、明治三十五年衆議院議員となり政治家として活躍し、明治三十七年四月、日本医科大学の前身私立日本医学校を設立し校長となる。

三、私立日本医学校設立前後

長谷川泰が済生学舎を廃校した直後、桂秀馬、川上元治郎は「医学研究会」を設置し旧済生学舎の学生救済に当たっていた。折りしも日露戦争が始まり、軍医不足となった。そこで桂、川上の両氏は衆議院議員在職中の山根正次に懇請して明治三十七年四月、私立日本医学校を設立した。校長山根正次、山根の元書生であった磯部検三が幹事となり補佐した。

四、朝鮮総督府衛生顧問時代

明治四十三年五月、校長のまま朝鮮総督府の衛生顧問となり、留守中の日本医学校の運営を磯部検三に託す。大正四年総督府を辞す。

五、財団法人私立日本医学専門学校設立

私立日本医学学校は明治四十五年二月八日、財団法人設立願を筆頭署名人山根正次他六名（磯部檢三は三番目）で、同年三月十六日私立日本医学専門学校設立申請を筆頭署名人磯部檢三他六名（山根正次は四番目）として何れも磯部檢三が書いて申請した。漸く七月十日、財団法人私立日本医学専門学校の設立が認可される。

六、瀧澤竹太郎事件

山根の留守中、大正三年磯部檢三と真泉病院主瀧澤竹太郎は権力闘争を起こした。瀧澤は敗れて自ら寄付した真泉病院を携えて日本医学専門学校を去る。その結果、同学校は内部崩壊し、文部省の無試験での開業資格指定を得られなくなった。

七、学校騒動

大正五年、何時までも卒業と同時に開業資格指定を得られないことに対して学生達は抗議運動を起こし、山根正次、磯部檢三の退陣を求めて学生四百余名が血判連著の上、総退学し、後日現在の東京医科大学の前

身東京医学専門学校を設立する。

八、晩年の山根正次

大正七年四月、校長を辞し、中原徳太郎を校長に推薦する。大正九年衆議院議員選挙に落選し、駒込の「特許消毒株式会社」の社長を務める。大正十四年中風症に罹り、八月二十九日永眠する。

九、おわりに

日本医科大学の校史には、その前身の私立日本医学学校を設立した山根正次についての記述が僅かにしか存在しない。

彼は生涯に渡って多くの事を試みるあまり医学教育・学校経営の面は疎かになりがちであった。それらの全てを任していた磯部檢三のみが昭和に入っても長命で、昭和九年、自らが私立日本医学学校の設立者である名乗り出、実権を握り、校史が歪められて記述されてきたことについて史実をもとに報告する。